

# 知っていますか？人の命を救う ボランティア「献血」のこと



命を救えるボランティア。日野町でも献血を行います。

## 400ml 献血に ご協力をお願いします。

献血は、病気の治療や手術などで輸血を必要とする人を救うため、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアです。

近年、10代から30代の献血者が減少しており、今後さらに少子高齢化が進めば、血液供給に支障をきたす恐れがあります。

今まで献血をしたことがない人も、「命を救うボランティア」に、ぜひご協力ください。

〈期日〉

10月6日(水)



〈会場と受付時間〉

- ・午前9時～午前10時：日野振興センター
- ・午前11時～正午：黒坂警察署
- ・午後2時～午後4時：日野町役場

※輸血を受ける人への副作用を軽減するため、400ml 献血をお願いしています。当日は、献血カードまたは本人確認ができるもの（免許証など）を持参ください。

### 献血ができる年齢と体重の基準

- ▼年齢：男性 17歳～69歳まで  
女性 18歳～69歳まで

※65歳以上は、60代で献血経験がある人に限ります。

- ▼体重：男女とも 50kg以上

その他、服薬状況などについては、当日受付でお尋ねください。

1人でも多くの協力をお待ちしています。

【問合せ先】町健康福祉センター（電話 72-1852）

無駄な命なんてない。  
殺処分される命を救いませんか。

町では、飼い主のいない猫の増加を抑え、地域の生活環境の保全や、動物愛護の観点から殺処分される命を減らすため、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術への助成金制度を設けています。

〈飼い主のいない猫の不妊・去勢手術  
助成制度〉

助成額 1頭当たり、手術費用の1/2  
(上限1万円)

問合せ 町健康福祉センター  
(電話 72-1852)



また、エサ、予防注射、病気の治療費など、動物を飼うとお金がかかります。飼ってからでなく、飼う前にも、これから10年以上の動物との生活を考えてみましょう。

令和3年度動物愛護週間のテーマは、「私たちがつくるペットのこれから」です。新型コロナウイルス感染症の流行など、人と動物を取り巻く環境も、年々大きく変化しています。ペットが私たちにもたらしてくれることなどを改めて見つめ直し、これからも続いていく人とペットとの多様な関係を考える機会にしましょう。

動物を飼うことは、動物の命を預かることです。飼い主は、動物が健康で快適に暮らせるようにするとともに、社会や近隣に迷惑をおよぼさないようにする責任があります。

9月20日～26日は、「動物愛護週間」です。

私たちがつくる  
ペットのこれから



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

### 大きく減少する 気管支喘息の重症化

ピーポー、ピーポー  
看護師「先生、喘息発作の患者さんが急患で来ます」  
私「は、はい(重症かなあ?人工呼吸器の準備がいるかな?)」

と、昔はいつも緊張しながら当直業務をしていました。ところが、最近はこのような患者さんは減りました。気管支喘息の患者さんは、1980年ごろから120〜160万人と横ばいです。一方、入院患者さんは20万人から4万人に大きく減少し、喘息による死亡者数は、1950年には1万6千人だったのが、2016年には1,500人と、十分の一に

まで減少しています。これは、どうしてでしょうか。それは、吸入薬による喘息発作の予防ができるようになったからです。

### 発症する前に 喘息発作を防ぐ予防薬

気管支喘息はアレルギー反応や感染などの炎症によつて気道が狭くなり、鼻から入った空気が通りにくくなる病気です。患者さんは座つてゼエゼエ肩で息をしています。胸の聴診をするヒューヒュー、プーと悲鳴のような音が聞こえます。これがさらに悪化すると、空気が全く入らなくなり窒息状態となつてしまいます。

患者さんは息ができない苦しさで、死ぬかもしれないという恐怖でパニックに陥ります。しかし、今はこのような喘息発作を防ぐ薬が広く使われるようになりました。気道の炎症を抑え、気管支の腫れをとるステロイド薬と気管支を広げる長時間作用性 $\beta_2$ 刺激薬です。どちらも吸入薬で直接気管支に作用するため薬剤の量は少なくてよく、全身

的な副作用の心配はありません。

これでも発作が予防できないときは、長時間作用性抗コリン薬(吸入)や内服の抗アレルギー薬、気管支拡張作用のあるテオフィリンを追加します。

### 自らの生活に合わせた 予防薬の服用を

大切なことは、これらの薬は予防薬ですから、発作がなくても使い続けることです。「最近、発作がなくて調子が良いから」とやめてしまうと、発作が起こります。発作がないのは薬のおかげなのです。私の喘息の患者さんも、ほとんど発作を起こすことはなくなりました。

このような予防薬は、予防できる最小量を投与する



のが理想です。しかし、発作を起こす要因が重なれば発作を起こしてしまうことがあります。発作の要因は患者さんによって異なりますが、よくあるのが、アレルギーの誘因となるペットの毛、ダニ、ほこり、カビ、花粉、鎮痛薬などの薬と、アレルギー以外では、たばこ、アルコール、急な運動、風邪などの感染症です。このような要因がある場合は、主治医と相談してどれくらいまで吸入薬を増やして良いか確認しておきましょう。喘息発作の苦しさ、恐怖は体験した人しかわからないものです。朝晩気温が下がってきました。発作の出やすい季節です。正しく予防薬を用いて、不安のない生活を送ってください。